

## 東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） ～ 管中混合固化処理工完了、総施工量約520万 $m^3$ ～

### 記者発表資料

国土交通省は、我が国空港ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』を平成22年10月の滑走路の供用開始をめざし、24時間365日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

この度、平成21年10月28日（水）、護岸・埋立Ⅲ工区（若築建設、あおみ建設、大林組）において、管中混合固化処理工の最終打設が完了しました。

同処理工については、平成20年10月21日から開始され、D滑走路建設工事での総施工量は約520万 $m^3$ に及び、中部国際空港の総施工量約860万 $m^3$ に次ぐ打設規模です。

これにより、D滑走路の埋立部においては、海中への土砂投入に係る施工を全て完了し、揚土工（陸上施工）が埋立部全域で展開され、来年の滑走路供用に向け、ラストスパートの段階に入りました。

なお、管中混合固化処理工は、軟弱な浚渫粘性土<sup>（注1）</sup>にセメントを添加・混練し、護岸背後の埋立土としてスラリー<sup>（注2）</sup>状態のまま打設して有効活用するもので、浚渫土の処分量低減の効果に加え、固化後の処理土は通常の土砂（単位体積重量：約18kN/ $m^3$ ）と比較して軽量かつ高強度であり（単位体積重量：約15kN/ $m^3$ 、一軸圧縮強度：300kPa=KN/ $m^2$ 以上）、護岸断面のスリム化によるコスト縮減が図られるといった長所を有しています。

（注1）D滑走路建設工事においては東京港内で発生した浚渫土砂を使用

（注2）水、浚渫粘性土、セメントを混練し、泥状となった流動体のこと

平成21年11月6日（金）

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

#### 同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ	横浜海事記者クラブ	神奈川建設記者会
都庁記者クラブ	千葉県政記者クラブ	東京航空記者会

#### 問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所D滑走路プロジェクト推進室	こばやし はらだ きふね みつやま 小林・原田・貴船・満山
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7	メンテナンスセンターアネックス 5階
電話 03-5756-6577	
HP <a href="http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/">http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/</a>	

